

## 「職人マイスター」累計500人認定

# 技術・地位向上を目指す

Sど  
A春め  
R来

【さいたま】大規模修繕工事・優良職人支援機構（RAS、立岡陽代表理事、03・5981・5131）は、マンションやビルの大規模修繕に特化した職人の技術を認定する「職人マイスター制度」について、2019年3月にも累計500

0人の認定者を目指す。改修・修繕の材料や施工方法に関する講習会を開くなど、認定者の増加と制度の定着を図り、職人の技術や地位向上を目指す。同制度は改修・修繕工事に必要な塗装、防水、床シート、シートなどに貼るシールマークも作成し、エンド

ユーザーへの認知も図っていく。現在、「職人マイスター制度」認定者は約130人。今後はRASが管理するデータベースに合格者を登録し、施工会社が施工実績などの情報を引き出せるようにする。

そのほかRASは、多能工化を目指す講習会など教育やインスパクション（検査）を行っている。大規模修繕施工会社の選定などに

大規模修繕工事をめぐっては、工事金額が高いだけで工物品質が担保できていない事実などが問題視されており、評価基準の明確化、民間資格制度の確立により改善を図る。

RASは14年、職人の地位向上と施工品質証明検査を目的に、1級建築士事務所イントロン（東京都豊島区）社長である立岡代表理事らが設立した。



職人マイスター制度の認定証（写真下）は関与せず、第三者機関として工物品質だけをチェックする。